

点的人間関係と線的人間関係

^{おうべいじん}欧米人は、日本人のように、「この間はどうも……」(Thank you for the last time.)という挨拶をしない。それが欧米社会の通念である。この社会通念を、ここではタテマエと呼ぶことにする。

日本的タテマエと欧米的タテマエは、正反対である。

それぞれのタテマエは、それぞれの社会でうまく機能している。しかし、現代のような国際化時代になってくると、違ったタテマエをもつ人同士の^{こうりゅう}交流も盛んになり、しばしば彼らの間で文化的^{しょうとつ}衝突がおこっている。何がタテマエなのか、タテマエを支えている価値観は何か、タテマエを^{やぶ}破ると何がおこるかなどについて、^{そうご}相互に認識を深めることが、この衝突をすくなくする近道であろう。

さて、欧米人に向かって、日本人が英語で、“Thank you for last time.”と言ったとしよう。彼らは、どんな^{しんりてきはんのう}心理的反応をおこすだろうか。

日本人のことをよく知っている人々は、「この間はどうも……」を英語に直訳しているなあ、そんな無理なことはやめた方がいいのに、と日本人に^{どうじょう}同情的であるだろう。

しかし、大多数の人々は、まず、last time とはいつのことか、何のことを話題にしているのか、と^{ふしん}不審に思うだろう。せっかく^{かんしゃ}感謝をしているのに、何に対して感謝しているのか^{かんじん}肝心の情報が^か欠けているからである。

欧米人が^{しゃい}謝意を述べるのはその^ぼ場限りということは前にも述べたが、例外もある。相手から最大級の^{おんけい}恩恵を受けた場合には、次に会ったときに、あらためて感謝の意を述べることはあり得る。しかし、この場合も、たとえば、“Thank you for bringing me the heavy books last week.”(先週は、重い本をはこんでくださって、ありがとうございました)のように、“何に対する感謝か” “「この間」とはいつのことか” を、はっきりことばで表現する。したがって、ただ^{ぼくぜん}漠然と「この間はどうも……」と言われると、^{とうわく}当惑してしまうのである。

また、よほどのことでもない限り、過去に受けた恩恵に対しては再度謝意を述べないのが^{げんそく}原則であるから、この原則を破ると、“あの人は感情高い” だと思われる。

“人にしてやった親切・人から受けた親切をいちいち^{かけい}家計^ぼ簿につけて、^{しゅうしけっさん}収支決算を合わせてようとしている”

“私はあなたから受けた親切をよくおぼえていて、こんなに感謝しているのですから、あなたも私から受けた親切を思い出して、足りない部分は^{おぎな}補ってくださいよ”

と、一種の心理的ゆすりにかけられたような気にさせられる。日本人の立場からみるととんでもない誤解、彼らの心理的反応は、そうなのである。

欧米人として、人から受けた親切を、そう簡単に忘れるものではない。ただ、感謝の気持をことばであらわすのは一回限りで、時間がたてば^{だま}黙ってすます、という習慣ができあがっている。

感謝の述べ方をめぐるタテマエの違いは、質的なものではなく、一回二回かという程度の差とみなすこともできよう。これは、欧米人の点的人間関係と、日本人の線的人間関係の違いに

^{きいん};起因しているのかもしれない。